

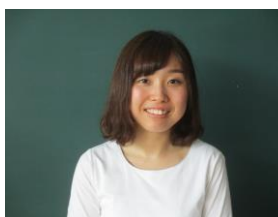
栗原市教育研究センター通信

第8号 平成30年9月発行

頑張れ!! 初任の先生たち! (中学校編)

日頃より、本センター事業につきまして多大なる御理解と御協力をいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

今回のセンター通信は、今年「学校の先生」となった皆さんからいただいた「4～8月までを振り返って」を掲載いたします(第8号は中学校、第9号は小学校)。どれもが初々しい内容です。



八重樫 薫(やえがし かおる)先生 <築館中学校>

小学生のころからの夢だった教師となり、築館中学校に赴任してあっという間にもう5か月経ったのかなと感じています。新しい土地や子どもたちに出会い、日々忙しくも新鮮な生活ですが、特に学級担任を持ったことが大きな変化でした。子どもたちが入学して2～3週間が経ち、ようやく名前を覚えた時期に、2泊3日の岩手山合宿がありました。エンカウンターや野外炊飯など、様々な活動を行いました。合宿のメインは集団行動でした。練習当初は子どもたちの意見がまとまらず、私の想いもうまく伝わらず、とても悩みました。しかし、子どもたちがみんなで団結しようとして声を掛け合い、発表会では見違えるような集団行動を披露してくれました。子どもたちから「先生、ありがとうございました」と言われたとき、教師として働けてよかったと心から感じました。この先まだまだ乗り越えるべきことはありますが、子どもたちと同じ目線に立ち、子どもから学びながら一緒に成長し続ける教師を目指して頑張りたいと思います。

白鳥 寛子(しらとり ひろこ)先生 <若柳中学校>

4月から若柳中学校に着任し、5か月が経ちました。2年生の担任を受け持ち、着任当初は私も生徒も緊張していましたが、授業、部活動及び学校行事等を通して、次第に当初の緊張感もほぐれていきました。

先日(8月31日)、指導主事学校訪問がありました。今回の授業は、題材、場所、授業スタイルについて、より踏み込んだ内容のものでした。新しいことにチャレンジすることは不安を伴うものですが、生徒は英文を一生懸命考え、分からないところは辞書で調べたり聞きにきたりと、ひたむきに授業に取り組む姿を見せていました。

その姿から、教員の働き掛けや工夫一つで、より生徒のやる気や能力を引き出せる授業展開となることに気付くことができました。

中学生という瞬く間に成長していく生徒と共に過ごす時間の中で、少しでも生徒のもつ可能性を引き出すために、多くのことを学び、共に成長していける教員でありたいと思います。



後藤 巧貴(ごとう こうき)先生 <栗駒中学校>

赴任してからの5か月は私にとっては一瞬で、そして毎日が新鮮だった。何もかもが初めての経験だった私は、生徒の前では不安な様子を見せないようにすることで精一杯で、教員として生徒のために動くことができなかったと感じている。

そんな中でも、日々の学校生活や行事などを通じて、生徒と一緒に笑ったり悩んだりすることが財産となった。うまくいかないことの方が多かったが、それでも生徒たちが「先生」と呼んでついてきてくれることがうれしかった。

私の目標は、生徒と共に私自身も成長していくことだ。生徒たちをはじめ、身近にいるたくさんの先生方から多くを吸収していきたい。

今後は、この5か月の反省を生かして、自分自身のことだけでなく、生徒のために尽力できる教員になりたい。思い通りにいかないこともきっとあるだろうが、何よりもまず生徒を愛し、これからはかけがえのない時間を生徒と共に過ごしていきたい。

頑張れ!! 初任の先生たち! (中学校編)



木皿 武宏 (きさら たけひろ) 先生 <高清水中学校>

4月に教員としての生活がスタートしてからこれまでの5か月間、初めての経験ばかりで常に新鮮な気持ちで日々を過ごしました。大学を卒業し教員となったばかりの自分でも、生徒から見れば先輩教員と同じ「先生」という立場であることに大きな責任を感じました。中学生と接する経験が教育実習の4週間のみで私にとって、生徒との距離感をつかむことは非常に難しく、初めのうちはどのように接するべきか悩みました。しかし、日々の生徒との関わりの中で悩むよりも、まずは自分から声を掛け話してみることが大切であると気付くことができました。このように生徒から気付かせてもらえる場面は教科指導においても多くありました。生徒から気付かされるたびに、素直に「頑張ろう」と思うようになりました。

今後の長い教員生活の中で生徒から気付かされること、先輩教員の方々から学ぶことを素直に吸収し、教員として、人間として成長し続けていけるよう努力していきたいと思えます。

小野田 巧 (おのだ たくみ) 先生 <瀬峰中学校>

赴任してからの5か月は瞬く間に流れ、どの日も「初めて」が付く出来事であられるものでした。教員として初めての大舞台は入学式でした。1学年の担任として生徒の名前を一人ひとり読み上げました。ものすごく緊張していました。背中には汗をかき、唇は乾き、心臓は破裂しそうなくらいでした。同時に、教師としての自覚と責任が芽生えた瞬間でもありました。

この5か月、生徒からは「先生も中学校1年生だからな」とよく言われます。未熟で仕事に不慣れな私を気遣う、彼らなりの優しさに励まされてきました。しかし、いつまでもこの言葉に甘えているわけにはいきません。諸先輩方の取組や自身の失敗から多くのことを吸収し、教師として絶えず学び続けていく姿勢をもち、一日一日を大切に生徒と共に成長していきたいと思えます。



野口 裕子 (のぐち ゆうこ) 先生 <金成中学校>

「おはようございます」と、はつらつとした声と表情で挨拶、なんて素敵な子たちなのだろうと感動したのが4月3日のことでした。気持ちのこもった挨拶ができるのは、教え導いてこられた地域の方々や先生方の「人を育てる力」なのだろうと思います。私もその一員として、子どもたちのよいところを伸ばしていきたいと思いました。

しかし、思いと現実とは違い、初めての学級担任は失敗の連続です。時間どおりの着席や給食の準備など、4月にできていたことがだんだん遅くなり、どうしようかと考えているとき、学年の先生が「〇〇くん、おりこうさんだからごはんお願いね」と呼び掛けてくださいました。その言葉がきっかけで、生徒は気持ちよく係の仕事をするようになりました。何気ないその一言には教師と生徒のお互いの「理解」や「信頼」といった見えないものが感じられました。先輩方のようにになりたい。先輩から学び、成長することを目標に頑張りたいと思いました。

《初任者研修市町村教育委員会研修Ⅱ (8月20日) の一コマ》



発行責任者

栗原市教育研究センター

所長 原 吉宏

栗原市金成沢辺西大寺 1-5

TEL/FAX 42-1157

教育相談専用電話 42-1230